

2022年度業務実績報告書

提出日 2023年 1月 16日

1. 職名・氏名 経済学部准教授・金花

2. 学位 学位 博士、専門分野 商学、授与機関 一橋大学、授与年 2014年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 企業論（4単位） 1年
② 内容・ねらい	企業は社会を構成する主要な存在の一つであり、今日の私たちの日常生活も企業の存在を抜きにして考えることはできない。では、企業とはどのような存在なのか、企業の活動や経営は具体的にはいかなるものなのか。また、企業はどのような主体といかに関わっているのか、そして、企業は利益の追求だけを目指しているのか。本講義では多様な視点から企業を見つめ、経営学の入門科目として企業への理解を深めることを目指す。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	初学者向けに、企業の様々な側面を理解できる主要なトピックを網羅的に扱った講義資料を作成し、これを主要な教材として使用した。また、講義内容のより深い理解のために、講義内容に即した事例を学生が自ら探し分析するというワークを繰り返し行い、学生によるアウトプットにも努めた。
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 日本経営史（2単位） 2年
② 内容・ねらい（自由記述）	本講義では、グローバルな視点から日本企業の経営・経済活動がどのように変化してきたのかを学ぶ。そのため、まずイギリスとアメリカに目を向け、世界経済の移り変わりを理解する。その後、戦前・戦後の日本経済に焦点を当て、日本がどのように経済成長を実現したのかを学ぶ。最後に、新興国も視野に入れることで、後発国のキャッチアップを理解し、日本企業が直面する課題を考察する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	毎回20～30ページの講義資料を作成し、これを主要な教材として使用した。講義内容について学生の理解度を把握するために、毎回小テストを実施した。
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 現代企業論（2単位） 大学院・1年
② 内容・ねらい（自由記述）	本講義は、企業の経営活動・社会現象に対する理解を深めることを目指すものであり、特にイノベーションや企業家の視点からアプローチする。講義では、教科書の輪読を中心に行いつつ、大学院生による研究発表と、関連する学術論文の輪読も組み合わせしてきた。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	教科書と関連する学術論文の輪読、学生による研究発表を行う上で、レジュメの作成とディスカッションを主要形式としてきた。これを通じて、大学院生の論理的な思考力を鍛えるように努めた。

<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 基礎ゼミ (2 単位) 2 年</p>
<p>② 内容・ねらい 社会や経済の発展においてイノベーションは重要な役割を果たしており、近年、イノベーションやその担い手となるアントレプレナーが注目されている。アントレプレナーやアントレプレナーシップとは何か。イノベーションの実現において、それらはどのような役割を果たしているのか。本ゼミではこのような問題意識をもとに、様々な企業活動に対する理解を深めていくことを目指す。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 基礎ゼミでは、教科書を輪読した上で、報告とグループディスカッションを中心に進め、毎回学生により活発なディスカッションが行われた。また、レポートを毎回提出するよう求め、講義内容を文章にまとめる能力の育成に努めた。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 演習 I (4 単位) 3 年</p>
<p>② 内容・ねらい 企業は社会の変化を生み出す重要な存在である。特に、イノベーションやそれを担う企業家は、企業の経営活動や社会に大きな影響を及ぼす。本演習では、前期に教科書の輪読を通じて、複雑な社会現象を理解するための基本的な思考法を身に付けるとともに、イノベーションや企業家の視点から企業の経営活動を理解することを目指す。また、後期にゼミ内の発表を通じて、自身の興味・関心のあるテーマを探り、それについて自ら調べ、文章にまとめ、論理的に発表する能力を養うことを目指す。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 前期は、教科書の輪読を踏まえて、専門知識を身に付けると同時に、報告・ディスカッション、レジュメ作成の訓練を中心に行った。後期は、レポート作成の指導を中心に行い、各自が関心のあるテーマについてレポートを作成し、発表とディスカッション、フィードバックを繰り返した。ゼミでは学生の主体的な参加を促した。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 演習 II (4 単位) 4 年</p>
<p>② 内容・ねらい 演習 I でやってきたことをもとに、卒業論文ないし卒業ゼミレポートの執筆を進める。具体的には、各自が興味・関心のあるテーマあるいは社会現象について、自ら課題を設定し、文献レビュー、資料収集、調査分析を行い、結論を導き出す一連の作業を行う。これらの一連の作業を通じて、論理的な思考力、調査能力、分析力、文章力などを養うことを目指してきた。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 指導の際には、個々の学生へのフィードバックを重視してきた。また、事例研究にあたっては、インタビューの実施など、現地調査を積極的に取り入れるよう指導した。</p>
<p>(2)その他の教育活動</p>
<p>内容</p>

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり） 「前田工織の長期成長戦略：関連・非関連の多角化の論理」（研究ノート）単著、『地域公共政策学会』（近刊）	【1 本】
③その他論文（査読なし）	【 本】
④学会発表等	【 件】
⑤その他の公表実績	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	

5. 地域・社会貢献活動

- | |
|--|
| ① 短期ビジネス講座，企画コーディネーター・司会（福井県立大学，2022年10月） |
| ② 高校生向け夢ナビ講義動画の撮影（2022年5月） |
| ③ 高校生向け夢ナビライブ 2022 in Summer，講義ライブ質問対応・研究室訪問（2022年7月10日） |
| ④ 高校開放講義（「企業目線で考えるということー経営学への招待ー」，北陸高等学校，2022年10月21日） |

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
短期ビジネス講座 企画コーディネーター（2019年4月～現在に至る） 全学FD部会委員（2022年4月～現在に至る） 学部教育学習支援チーム（FD部会）委員（2022年4月～現在に至る）
(3)学内行事への参加
高校入試説明会，高志高等学校，2022年9月30日
(4)その他、自発的活動など